



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(DC会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043(222)7207 番
FAX 043(224)7197 番

2001.2.5 No. 5262

組織拡大に向け全力疾走！ 1/25 銚子支部 第21回大会

1月25日、銚子支部第21回定期大会が、銚子市コミュニティセンターで開催された。
大会は田中君を議長に選出して開会。冒頭あいさつにたった渡辺支部長は別掲のとおり大会の課題を提起した。

続いて、本部長中野委員長、銚子地区労務局長より来賓のあいさつ、執行部からの議事の提案をうけた後、活発な討議が行われ、満場一致で闘いの方針が決定された。

また大会の最後には、一月一日に東労組から動労千葉に結集した名雪君から、共に闘う固い決意が表明された。
この日は、支部大会に先だって、支部乗務員分科第20回定期総会が開催された。

《だされた主な意見》

● 検修・構内の外注化攻撃がかけられている。その一方で車両故障が多発しており、どんな故障でも指令にあげていくような取り組みをしてほしい。

● 九州のJR総連脱退についてもっと詳しく知りたい。

● 営業関係も合理化がかけられている。要求をまとめ闘い強化したい。また24時間30分拘束というような勤務は解消してほしい。

● 営業に塩漬けになっている仲間たちを戻す取り組みをもっと強化してほしい。

● 国労が4党合意を認めた場合、職場の中で国労組合員に対する対応をどうするのか。今までのままでいいのか。

▼渡辺支部長あいさつ

結成以来20数年間の闘いのなかで、昨年には組織拡大を頑張ったという思いを込めたDC会館もできた。また昨年の大会では三つの闘争方針が決定されている。そのひとつが「〇四七名の解雇撤回、国労統開大会に向けた闘いだ。国労本部は『4党合意を受け入れる』というグループが牛耳っている。彼らは、三千万円の和解金がでるなどというデマまで流して闘争団を切り捨てようとしている。われわれは伊藤さん、多田さんの原職復帰に向けて原則を守って一丸となつて闘ってきた。職場のなかからも議論をおこし、4党合意を認めるという動きをなんとかも粉砕しよう。

第二の課題はシニア協定と業務外注化攻撃との闘いだ。シニア協定に対しては三名の先輩が地労委闘争にたちあがり、動労千葉は今年、組織をあげた闘いを組むという方針を決定している。また、駅に強制配転されている仲間たちの復帰に向けた取り組みも全力で進めたい。

第三の課題は、JR総連解体・組織拡大の取り組みだ。一月一日には名雪君が、奴隷の道をとるのか、笑顔で何でも言える職場をつくるのか、という選択のなかで、東労組を脱退し、動労千葉に結集してくれた。これをステップとして、今年は全力で組織拡大を進める年としたい。

▼加瀬分科会長あいさつ

21世紀はじめての分科の大会であり、身も心も新たな気持ちで臨みたい。20世紀は、分割・民営化・清算事業団送りなど激動のなかを歩んだ。しかし、われわれの闘いの正さを確信し、仲間を信じて闘ってきた。こうしたなかでの名雪君の結集は、波の大きな揺れのはじまりであり、大きな成果だ。

分科会は、実態調査など細かい作業を続け、要求を会社に叩きつけるなかで着実に成果をかちとってきた。

シニア・外注化など、東労組・会社一体となって退職時にまで不当労働行為を是正しようという方は許せない。また外注化は、先輩から引き継いできた技術力を解体するものだ。運転保安の観点からも、なお一層努力しながら闘っていききたい。

● 終夜起電をする場合の基準はどうなっているのか。もっと早く判断させることはできないのか。

● 運転時分のきつい区間について、解消する取り組みを。

二〇〇〇年度支部役員

支部長	副支部長	書記長	執行委員	特執	会計監査
渡辺 靖正	越川 幸夫	伊藤 彰	鈴木 貴雅	志賀 日出男	片平 敏雄
			木村 貴雅	関根 嘉一	鎌倉 昌雄
			津川 貴雅	小川 一夫	錦織 芳雄
				川賀 一夫	山形 昌雄
				志賀 日出男	山形 昌雄
				関根 嘉一	片平 敏雄

二〇〇〇年度分科役員

会長	副会長	事務局長	委員/ダイ
加瀬 利夫	庄田 聡	永井 誠	戸村 洋
			本島 康
			笠井 隆哲
			遠藤 孝則
			田中 孝則
			又中 孝則
			勝田 孝則

